

ことなどあそび

2000年
8月

高橋悠治

「箏」と「——」などあそび」の同時演奏

「——」などあそび」はどんな旋律楽器や打楽器がいくつでもよい
ソロ楽器が変わればタイトルは

「x」「ソロ楽器名」などあそび」になる

「——」などあそび」の演奏法：

楽器はおたがいに離れる ときどきうごいてもよい 照明は暗く
できるだけ調子はずれに 音あわせはしない
自信ありげに弾かない 音は不確かに あいまいで おぼつかなく
かそけく 抑えがたく
注意深く だが緊張せずに自分の音をきく
音ははじまり つづき 消えるのを

旋律楽器は：

奏法1 きこえた音からわずかにはずれたピッチの長い音

アクセントなし アタックなし

管楽器はタンギングなし 息の分量や口のかたちを変えながら
弦楽器はゆるめた弓を速度を変えながら

ふつうの位置から木の部分まで回転させて

奏法2

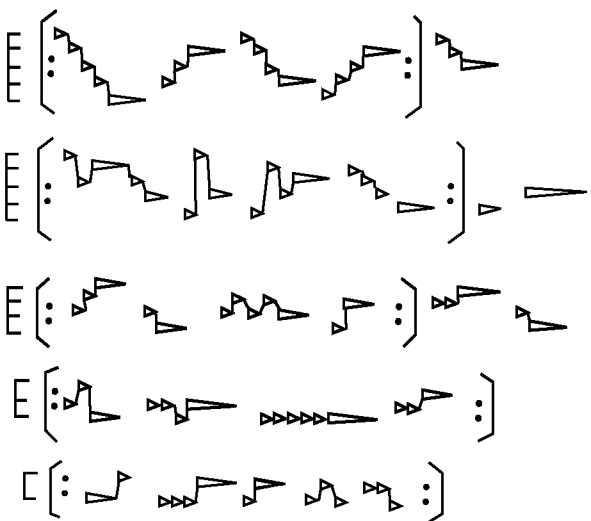
きこえた音とはちがう音

短い音は こどもが手のなかのものを落とすように 無心に

長い音は まず微音でためし 一息入れてから

奏法3

次の断片から 他人がそのとき弾いているのとはちがうもの
反復回数は自由 途中で別なものに変えてもよい たよりなく



打楽器は：

奏法1 きこえた音にこたえる まず微音でためしてから

あとに長い休止

奏法2

ゆつくりとすこし不確かに拍をきざむ
他の打楽器はそれぞれのテンポで応える

奏法3

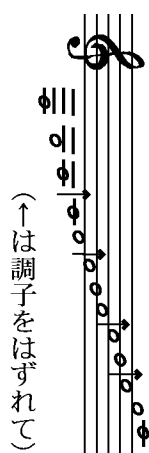
違うテンポでゆつくり 5, 7あるいは9拍に1打

箏

高橋悠治

二〇〇〇年八月

調絃



(↑は調子をはずれて)

奏法一 次の手のどれかを まず微音でためし 一息おいてから弾く 前後に長い沈黙

ンヨイテーン ×

ンイヤツウン × ヲハ

ンヤシュー ←

ンヨイトーオン ×³ ヲハ

ンヤテツン × ×

(ンは微音)

(押し手はすべて調子をはずして)

(テとツンはちがう糸)

奏法二 AとEの一部 一手あるいは一言 奏法一とおなじく準備あり

手の場合は微音で 声の場合は微声で

奏法三 AとEのどれかをループとして 起点と終点は任意

Aでは唄や手の一部を休むこともできる

リズムは唱歌により テンポは極度にゆれて

A

のーもー さんまんだーもとなんおはらーちーこたしやーそのなん とーじーとーえん
 六ス七 五四 一² 二³ 三八 斗 十九 為 四³ ヲ 五³ 巾 為⁷ 巾⁷ 六
 ツルテーンテツンシャントテーンコーロリンテーンオントーンコロリンカラーリン

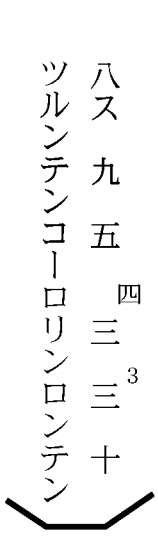
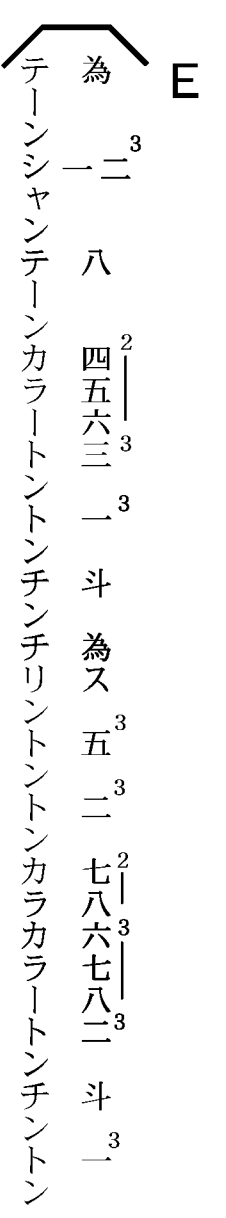
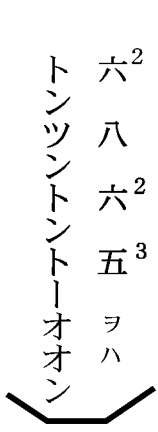
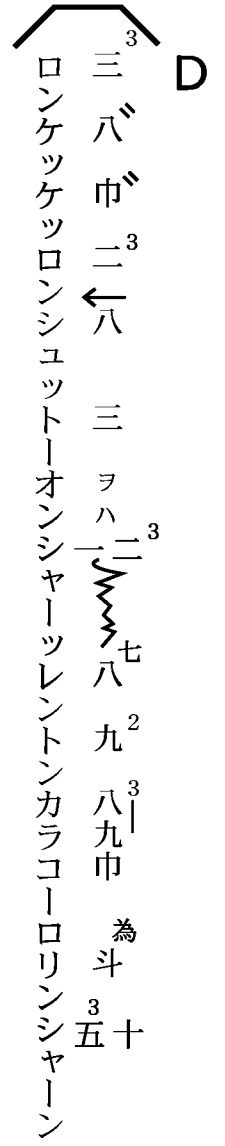
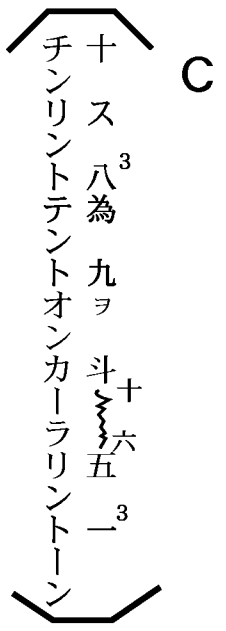
ぎやーぎやー^{ぎやーきー} うんぬん しふらーしふらーはらしふらーはらしふらー
 七 五 七 八 十 ← 二 → 一 七 九 八 七 六 巾^ハ 斗ス為^{ヲハ}
 シャーントンツウンテーンシューシュツ ツウコーロリントンチインチリチイン

ちしった しつちり そはじゃー
 ちしった しつちり そはじゃー せんちーぎやーしりえーともこー
 巾^為 巾^{ス巾} 二 六⁴六⁵二³ 斗 為^ヲ 五^ハ 一³
 カラーリンチリチントーンツツツツシャーッレンツウントーン

B

為 七^ハ 五^四 為³ 五^巾 一² 二³ 二¹ 一¹ 五^ヲ 七^ハ 六^五 四^十 一³ 四^ヲ 八
 テーンツウンテツンテントンチーンシャシャテンツウンコロリントンテントオン

二³ 三^四 七^九 八^三 二^三 三^三 二^ヲ 八
 トントレントンカラーリントトオン



『仏説熾盛光大威徳消災吉祥陀羅尼經』唐 不空訳 (大正藏經一九卷三三七頁)

- 曇摩三滿跢ノイモーサンマンダー 沒駄喃モトナン 阿鉢囉底オハライチー 賀哆舍コトシャ 娑娜喃ソノナン 怛姪他トイジト
- 唵エン 佉佉ギヤーギヤ 佉唎ギヤーキヤ 唎クンスン 入囉囉シフライ 入囉囉シフライ 鉢囉入囉囉ハラシフライ
- 鉢囉入囉囉ハラシフライ 底瑟姪チシツク 底瑟姪チシツク 瑟致哩シツチリ 瑟致哩シツチリ 薩普吒ソハツヤ
- 薩普吒ソハツヤ 扇底迦センチギヤ 室哩曳シリエ 娑囉賀ソモコ

宇宙に遍在する勝利者 執着から解放され支配者となつた諸仏を讃えよう
この敬礼により 虚空 一切智 守護によりすべての災いが消え
吉祥と成就あらんことを